

今月の

5冊



強みと弱みからみた 在宅看護過程 +総合的機能関連図

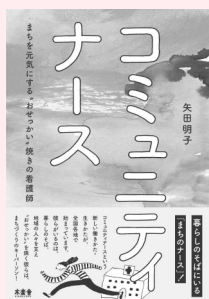
河野あゆみ＝編集
草場鉄周＝編集協力
本体3800円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600

大人気「からみた」シリーズに在宅看護がついに登場。患者と家族の全体像を疾患・医療ケア、活動・環境、理解・意向の4領域から捉え、強みと弱みの視点から看護の課題をわかりやすく解説。実習でよく出会う健康障害、在宅で重要な患者・家族の心理・社会的課題をそれぞれ、典型事例の看護過程の展開で提示。学生、初任者必携の学習書。

コミュニティナース

まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師

矢田明子＝著
本体1500円＋税
木楽舎 ☎03-3524-9572



コミュニティナースは、看護の専門性を活かしながら、制度にとらわれることなく、まちに出て自由で多様なケアを実践する医療人材のこと。著者はその活動を1人で始め、育成講座を開き130人以上を誕生させている。事例はそれぞれの地域ケアをめぐる奮闘記。気軽に体や暮らしにまつわる相談ができる“おせっかい”なナースがいたら、まちは元気になる。

父と僕の終わらない歌

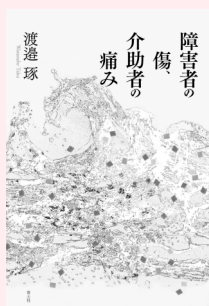
サイモン・マクダーモット＝著
浅倉卓弥＝訳
本体1500円＋税
ハーバーコリンズ・ジャパン ☎03-5295-8098



アルツハイマーで怒れる怪物になってしまった父親が、80歳でCDデビューするまでを綴ったノンフィクション。過剰な攻撃性を発揮する父に、絶望する母と息子。しかし、彼の怒りが自分の知らない世界に迷い込んでいる恐怖心から、と気づいた息子は、父が諦めた歌手への夢を叶えるべく、SNSを通して父の歌声を発信。世界中から応援を受けて奮闘する！

障害者の傷、介助者の痛み

渡邊琢＝著
本体2200円＋税
青土社 ☎03-3294-7829



相模原障害者殺傷事件は社会に何を問いかけたのか。障害のある人となない人がともに地域で生きていくために何ができるのか。障害者と介助者が互いに傷つきながらも手に手を取り合ってきた現場の歴史をたどりながら、介助と社会の未来に向けて言葉をつむぐ。

家族はなぜ介護してしまうのか 認知症の社会学

木下衆＝著
本体2300円＋税
世界思想社 ☎075-721-6500



社会学者として認知症家族介護の研究を続けてきた著者による書。家族たちは「介護はプロに」と思いながらも、悩み、憤りをくり返し、介護に巻き込まれていく。「なぜ、家族は介護してしまうのか」という問いを出発点に、現代の認知症ケアの構造を明らかに、そして認知症について何らかの形で学んできた家族がどのような経験をしているのかを描く。